

論文番号 27

担当

滋賀医科大学 福祉保健医学講座

題名 (原題/訳)

Prospective Study on Alcohol Intake and Risk of Subarachnoid Hemorrhage among Japanese Men and Women

日本人男女におけるアルコール摂取とくも膜下出血についての前向き研究

執筆者

Sankai T, Iso H, et al.

掲載誌 (番号又は発行年月日)

Alcoholism: Clinical and Experimental Research 2000; 24: 386-389

キーワード

Subarachnoid Hemorrhage, Prospective Study, Heavy Drinking, Smoking, Hypertension

要旨

(背景) 国内においてくも膜下出血の危険因子としての多量飲酒についての前向き追跡研究 (コホート研究) はほとんどない。これはくも膜下出血の発症率が脳内出血や脳梗塞など他の脳卒中の型に比べて少なく、単独地域でのコホート研究では分析に必要な例数を集めることが困難だからである。そこで複数の地域を対象としたコホート研究を設定し、日本人のくも膜下出血の発症に多量飲酒がどう関わっているかを検討した。

(対象と方法) 対象としたのは、秋田県 3 地域、茨城県、高知県、大阪府各 1 地域の計 6 地区で、1970 年代後半から 1980 年代前半に循環器検診を受診した 40~69 歳の男性 4,978 人、女性 7,394 人である。この集団に対してくも膜下出血の発症状況に関する調査を毎年行い、平均 9.4 年間追跡した。くも膜下出血の診断は本人また同居家族に面接の上、CT 所見と臨床症状の組み合わせで行った。

(結果) 観察期間中に 71 例のくも膜下出血が発症した。粗発症率は 1,000 人年あたり 0.4 人であった。年齢、喫煙区分、血圧区分、総コレステロール、BMI、糖尿病の既往を調整した場合、男性の多量飲酒 (エタノールで 1 日 69g 以上、日本酒換算で 3 合以上) のくも膜下出血発症の非飲酒群に対する相対危険度は 4.3 (95%信頼区間 1.1-16.8) と有意に高値であったが、低~中等度の飲酒 (69g 未満) では 1.0 と差を認めなかった。この傾向は女性では認められなかったが、これは女性の多量飲酒者が 15 人しかおらず分析できなかったからである。更に男性では、喫煙をしている多量飲酒者のくも膜下出血発症の相対危険度は 6.0(1.8-20.1)、高血圧を伴う多量飲酒者の相対危険度は 13.0(3.9-43.9)で有意に高くなっていた。

(考察と結論) 多量飲酒は日本人集団の男性においてもくも膜下出血発症の危険因子であることが示された。また多量飲酒に喫煙や高血圧を伴うと更に危険性が高まることが明らかとなり、これらの生活習慣や危険因子を制御することにより、くも膜下出血の発症予防が期待される。